

## 11月2日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①Russia News] 10/30 時事ネタ水曜版です👁️!!(ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2024年10月30日)

時事ネタ水曜版をお届け致します！BRICS サミット 2024 in カザン、プーチン大統領の記者会見から。 ➡ 安齋注:必見映像でしょう。

<https://youtu.be/x5v1q0Ck6cg>



<https://www.youtube.com/watch?v=x5v1q0Ck6cg>

### ②ドイツ経済は壊滅寸前(2024年10月30日)

ドイツの自動車メーカー、フォルクスワーゲンは、87年の歴史で初めて、国内市場の生産拠点を閉鎖する計画を立てている。

少なくとも3つの製造工場が閉鎖され、残りの工場は規模が縮小され、職に就く人は(何万人もの従業員が職を失った後)給与の10%削減とボーナスの打ち切りを受け入れなければならない。

ドイツの経済崩壊は、ヨーロッパの他の国々をも引きずり下ろすだろう

なぜこんなことが起きているのか？ ああ、そうだ。

ドイツが現在米国とインド(ロシアから購入)から購入している生産用のエネルギーは高すぎる。

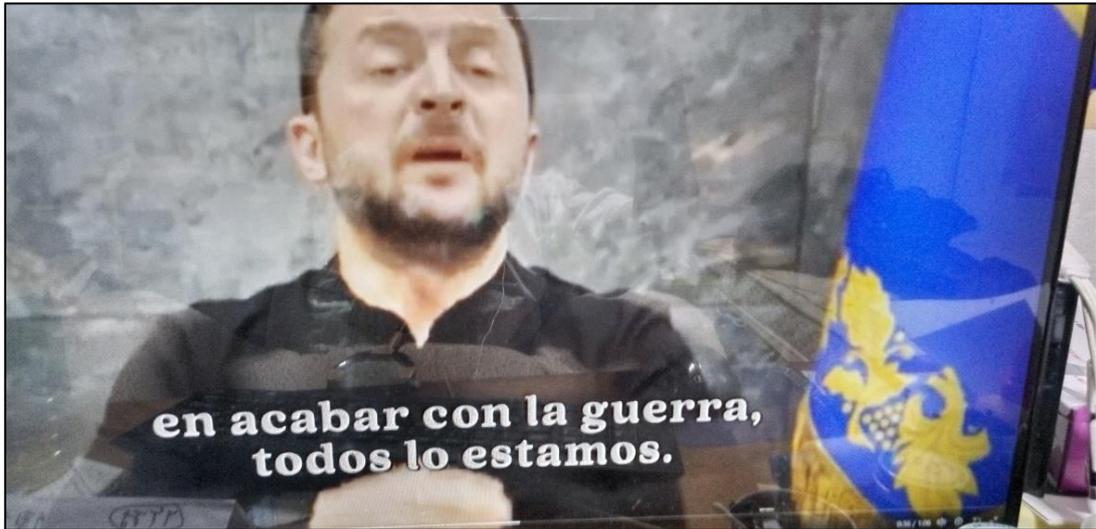


[https://x.com/Megatron\\_ron/status/1851238978868961558](https://x.com/Megatron_ron/status/1851238978868961558)

### ③【ゼレ🇷🇺一偉そうな貧乏神】(2024年10月30日)

インド人ジャーナリスト相手に、インドINのなすべきことを偉そうに講釈を垂れるゼレ🇷🇺：  
今日、ロシアとウクライナの戦争で「ウチは中立です」と言うのは不可能だ。  
中立はあり得ない。というのは、それはロシア側に立つことだから。

<https://x.com/i/status/1851436444105253242>



[https://x.com/Kumi\\_japonesa/status/1851436444105253242?s=09](https://x.com/Kumi_japonesa/status/1851436444105253242?s=09)

※安齋注:何か戦争中毒に毒された病者の印象です。

### ④ロシアの記者に対するワシントンの入国拒否(2024年10月31日)

昨日ワシントンでロシアのメディア班が正当な理由なく入国拒否される事件が発生しました。パリオリンピックでも突然現場入りが禁止されたり…大統領府回りのザルービン君が在口歴の長い BBC 特派員に突撃取材。絶対変でしょ!?!と迫る若きジャーナリスト対しどろもどろの英国ベテラン記者。

<https://x.com/i/status/1851826140421165114>



[https://x.com/jupiter\\_russia/status/1851826140421165114?s=09](https://x.com/jupiter_russia/status/1851826140421165114?s=09)

### 〈関連情報〉

露外務省のマリア・ザハロワ報道官は 30 日、米国に到着した露記者らが入国拒否される事案があったと明かし、「対抗措置なしには済まさない」と警告した。

ザハロワ報道官によると 29 日にかけての深夜、首都ワシントン郊外の空港に到着した露メディア「イズバスチヤ」の撮影班が、入国審査で引き止められた。記者らは大統領選の取材のため、必要な許可を取った上で渡米していた。

だが、米当局は彼らの撮影機材や通信手段を全て取り上げ、数時間にわたり尋問を行った。その結果、入国拒否となり、何らかの「行政上の理由」でビザは無効とされた。

この間、在米露大使館は撮影班と連絡を取ったり、必要な措置を取ることが許されなかった。ザハロワ報道官は「今回の出来事は、情報アクセスの自由やメディアの多元主義を確保する分野における米政府の重大な違反であり、これは国際的義務だけでなく、米国自らの憲法にも矛盾するものだ」と指摘した。



[https://sputniknews.jp/20241030/19264979.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20241030/19264979.html?rcmd_alg=collaboration2)

### ⑤ゼレンスキー氏の勝利計画、「同盟国で懸念」=米務省(2024年10月31日)

米務省のマシュー・ミラー報道官は、ゼレンスキー氏の「勝利計画」について「これが状況を複雑化させるとは思わないが、多くの NATO 同盟国の間で懸念を引き起こしていることは確かだ」とし、その条項に関する議論が進行中であると明らかにした。

ゼレンスキー氏は 10 月中旬、「勝利計画」を提示し、計画の実現により 2025 年までにウクライナ紛争を終結させることが可能になると述べた。計画には、ウクライナの速やかな NATO 加盟、ロシアへの長距離攻撃許可、ウクライナへの「包括的な非核抑止パッケージ」の配備などが盛り込まれている。

露外務省のザハロワ公式報道官氏は、ゼレンスキー氏の「勝利計画」について、これは計画ではな

く、一連の支離滅裂なスローガンだとコメントした。ザハロワ氏によれば、この計画は NATO をロシアとの直接衝突に追い込むだけだという。



<https://sputniknews.jp/20241031/19266170.html>

### ⑥逃げるが勝ち？失踪したウクライナ兵、10 万人を超える(内容再報、2024 年 10 月 30 日)

ウクライナ兵はロシア軍の猛攻を受け、次々と戦線を離脱し、行方をくらましている。ウクライナ最高議会のスコロホド議員は敵前逃亡した兵士の数が 10 万人を超えたと発言した。

自らの意思で部隊を離れた兵士や、戦闘行為への参加を拒否した兵士らに対してウクライナ検察が起こした刑事事件の数は 6 万件を超えており、議員の証言は決して誇張ではない。

強制動員されたウクライナ兵の士気は低く、兄弟民族のロシア兵を相手に戦うことを拒否するケースが後を絶たない模様。

一方、西側から武器供与を受けたいウクライナ政府は兵士を確保する必要があることから、18 歳以上の学徒出陣を視野に入れている。

国連人口基金の調査によると、2014 年のウクライナ危機以降、国内の人口は 1000 万人減少した。ウクライナ政府は 2001 年を最後に国勢調査を行っていないため、国内に居住する国民の数を把握していないが、ロシア政府の評価によると、ウクライナ国民の数は 1970 万人にまで減少している(ソ連崩壊時は 5200 万人)。



<https://sputniknews.jp/20241030/19265268.html>

## ⑦露国境侵犯未遂の工作班の外国人傭兵の存在はウクライナ軍の人員不足を示す ＝元米軍人(2024年10月30日)

ロシア国境侵犯を試みたウクライナ人戦闘員の中に外国人傭兵がいたのは、ウクライナには同様の課題をこなす「経験豊富な戦闘員が極度に不足」している事実を物語っている。元米軍中佐のアーサー・ラスムセン氏はスプートニクからの取材にこう答えた。

ラスムセン氏はこうした侵犯の「特務作戦」には工作、諜報活動を行う能力のある「専門的なスキルをもった」オペレーターが必要とされるが、ウクライナ軍にはそうした人員がいないため、「外国人傭兵に依頼するほうが得策と判断」したと見ている。

工作班が比較的小規模だったことから、ラスムセン氏は、目的が「戦闘のために脆弱箇所を見つける諜報活動」であったか、工作を行うための潜在的な標的探しであった可能性があるとは指摘している。また、米国が「すでにかかなり以前から」ウクライナ紛争に参加しているために、この事件はロシアの敵側でパラダイムが変化していることをほのめかしている可能性があるとは見ている。

「舞台裏に直接参加というのはある程度新たな方向性だ。これが絶望を示す兆候なのか、それともウクライナ側の弱さを示しているのか？ おそらくはどちらも事実だろう」

露連邦保安庁(FSB)は28日、ウクライナと接する西部ブリャンスク州へ国境侵犯を試みた4人の工作員を殲滅したと発表。4人のうち1人には米陸軍の精鋭部隊「第75レンジャー連隊」の隊員であることを示唆するタトゥーが彫られていた。そのほか、カナダ国旗や英語で書かれたノート、ポーランド語の祈禱書など、彼らが外国人であることを間接的に示す所持品が発見されている。



[https://sputniknews.jp/20241030/19262201.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20241030/19262201.html?rcmd_alg=collaboration2)

## ⑧特別軍事作戦 10月29日の概要 露国防省(2024年10月30日)

ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報を発表した。スプートニクが最も重要な項目をまとめた。

ロシア軍はドネツク人民共和国のセリドヴォ市、ゴルニャク市、カテリノフカ村、ドブロヴォリエ村を解放した。

ウクライナ軍はロシア軍部隊ユグ(南方面)隊の守備範囲において過去24時間で985人以上の人員とレオパルト戦車1両を失った。

ロシア軍はウクライナ軍参謀本部・無人機制御センターを攻撃、破壊した。



<https://sputniknews.jp/20241030/1029-19262612.html>

### ⑨トランプは、選挙に勝てば、ロシア連邦と仲良くなり、第三次世界大戦を防ぐと約束した(TACC, 2024年10月30日)

ニューヨーク、10月29日。/TASS/です。共和党のアメリカ大統領候補ドナルド・トランプは、もし彼が一週間後に迫った選挙に勝てば、ロシアとの関係を改善し、第三次世界大戦への転落を防ぐと約束している。

彼のマー・ア・ラーゴの邸宅で支持者やジャーナリストを前に、彼は選挙に勝った場合、世界的な武力紛争を防ぐために働くことを保証した。「私たちは戦争をしません。我々は第三次世界大戦を起こさない」とトランプは言い、彼の勝利の可能性について語った。「そして、私たちは中国と仲良くなるでしょう。私たちはロシアと仲良くなるでしょう。私たちは誰とでも仲良くなるでしょう」と、ホワイトハウスに戻ろうとしている元アメリカ指導者は確信している。

同時に、トランプは、彼と彼の側近とロシアとの間の共謀疑惑について、一時はほのめかしを広めたアメリカ合州国の政界を再び激しく非難した。「彼ら(これらのアメリカの政治家や役人)が約。TASS)が国に行った、それはひどいものでした。そして、率直に言って、これは私たちを深刻な脅威にさらしました」と元大統領は言いました。

米国の次の総選挙は11月5日に行われます。トランプ氏と民主党のカマラ・ハリス氏は、国家元首のポストを争うこととなります。トランプは第45代アメリカ大統領で、2017年から2021年にかけて権力を握っていました。彼は2020年の大統領選挙で民主党のジョー・バイデンに敗れ、今はホワイトハウスに戻ろうとしています。ハリス氏は現在、米国副大統領のポストに就いています。

<https://tass.ru/mezhdunarodnaya-panorama/22263547>

### ⑩バイデンがウクライナに対して何をしたのか信じられないだろう、ゼレンスキーは激怒している | 編集済み、クレイトン・モリス(2024年10月31日)

※安齋注:最初の8分間をご覧ください。

<https://youtu.be/JrMGY6wyZQQ>



<https://www.youtube.com/watch?v=JrMGY6wyZQQ>